

# 統合レポート 2025

Integrated Report



# つなぐ安心、つなげる力



当社は1901年(明治34年)に創業し、以降、洋釘製造のリーディングカンパニーとして業界を牽引して参りました。

その後の世界情勢や日本経済の変化の中においても、一貫して兵庫県尼崎市での高品質洋釘の技術革新を行いつつ、お客様のご要望にお応えして参りました。

丸釘から特殊釘、そして大変ご好評を頂いております木割れ最強釘など、幅広い製品を取り揃えております。また関係会社のナテックでは、OA機器や自動車業界向けに革新的なファスナー製品を供給しお客様から高い評価を頂いております。

今後も引き続き世の中の変化に柔軟に対応しながらマーケットのニーズに全社をあげてお応えしていく所存です。また、サステナブルな社会の実現、カーボンニュートラルへの対応にも積極的にチャレンジして参ります。

代表取締役社長

**佐藤 亮**

# 目次

P.1 トップメッセージ

P.2 目次

P.3 経営理念・企業行動基準

P.4 沿革

## 第1章 価値創造

P.5 事業概要(建設・梶包向)

P.8 事業概要(電気・輸送機器向)

## 第2章 成長戦略

P.11 前中期経営計画(2022～2024年度)総括

P.12 新中期経営計画(2025～2027年度)

## 第3章 価値創造を生み出す基盤

P.18 SDGs

P.19 環境社会への貢献

P.20 安全衛生・BCP

P.21 投資家との関わり

P.22 地域社会との共生

P.23 コーポレート・ガバナンス

P.24 キャラクター

P.25 メディア掲載

## 第4章 コーポレートデータ

P.26 財務情報(グラフ)

P.27 財務情報(表形式)

P.28 非財務情報

P.29 会社情報・株主情報

### 編集方針

この統合レポートは、株主・投資家のみなさまに当社の事業内容と新しい取組みを共有し、より良い対話を通じて中長期的な企業価値の向上を実現していくことを目指すものです。

### 報告対象範囲

アマテイ株式会社  
株式会社ナテック

### 発行時期

2025年12月

### 本レポートに関する問合せ先

アマテイ株式会社 経営管理本部  
人事総務部 IR広報課(06-6411-7084)

〒660-0845  
兵庫県尼崎市西高洲町9番地

## ～経営理念～

1本の釘・ねじで、ものともの、人と人との繋ぎ、  
豊かな社会づくりに貢献します。

## ～企業行動基準～

当社は、利潤を追求すると同時に、社会にとって有用な存在でなければならない。

そのために、以下8つの企業行動基準を設定し、これに則り企業の発展を通じ社会に貢献するものとする。

01. 法令・定款・および社内規程を遵守する。
02. 安全と防災をすべてに優先させる。
03. 環境の保全と調和を図る。
04. 働きやすい職場環境を実現する。
05. 優れて安定した製品を顧客に提供し、顧客の満足と信頼を獲得する。
06. 「良き企業市民」として、地域社会発展への寄与と社会貢献活動を行う。
07. 社会が必要とする存在であるよう、常に創意工夫を行う。
08. 反社会的勢力を排除する。

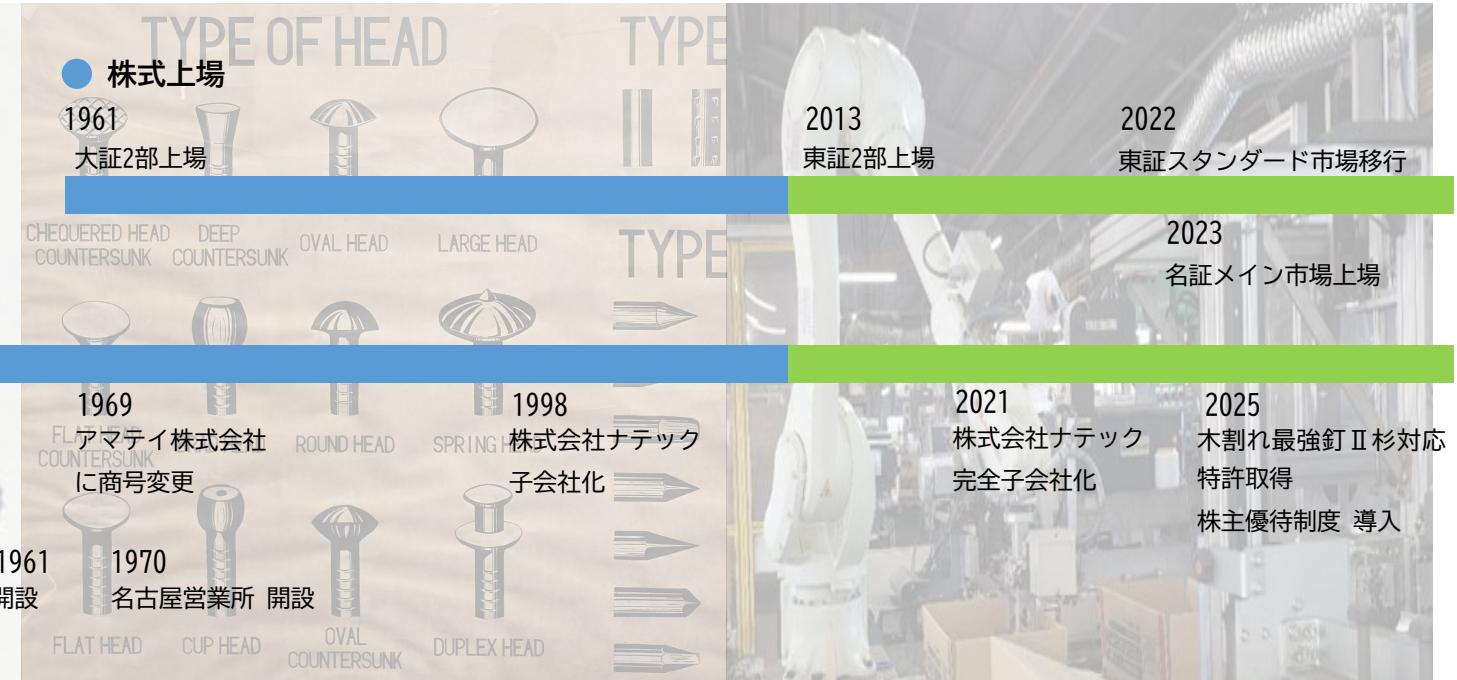
## アマテイの歩み

## 会社の歩み

1901  
岸本製鉄所 開設  
(当社の最前身)

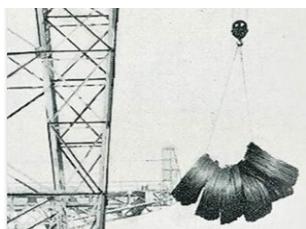
1944  
大建産業株式会社  
設立

1949  
当社 発足  
((株)尼崎製釘所)



## 創業～戦時中のストーリー

当社の最前身は、1901年に開設された岸本製鉄所です。第一次世界大戦や日中戦争など、戦時中混乱期の中で合併や分割を繰り返し、時代ごとの日本で求められるニーズに柔軟に対応して参りました。



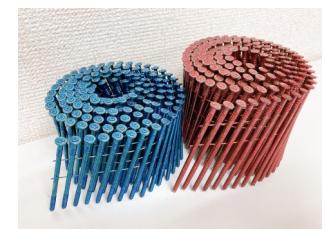
## 戦後～株式上場のストーリー

1949年に大建産業が分割される形で(株)尼崎製釘所として発足しました。1961年に大阪証券取引所に上場し、1969年、アマテイ株式会社に商号を変更しました。その後、日本はオイルショックやバブル崩壊などに見舞われましたが、その都度状況に応じた対策を講じ、第一線を歩み続けることができました。



## 環境への取組みを意識したストーリー

地球環境への配慮が強く求められるようになってきた現代においても、アマテイグループでは、環境に配慮した製品の開発や梱包資材の削減など柔軟に対応しております。今後も「木割れ最強釘Ⅱ 杉対応」「セルフタッピングスクリュー」などの製品供給を通じてカーボンニュートラル社会の実現に貢献して参ります。



## 事業概要



主に住宅建設・梱包業界向けに販売  
高機能・高品質な製品の提案、開発

## 事業内容

当社は洋釘のトップメーカーとして、主に建設・梱包業界向けに約800種類の釘の製造・販売を行っております。

建設向の釘は主に2X4(ツーバイフォー)住宅などに使われ、梱包向の釘は木製パレットや木枠梱包などに使われております。

当社は大手住宅メーカーを中心に全国に700社以上のお客様とお取引させて頂いており、お客様のご要望に沿った製品の提案や開発を多数行っております。

## 製品例



スクリュー釘



スーパーコンクリート釘



木割れ最強釘



CNZ釘

## 製品使用例



住宅



非住宅木造建築物

(出典)公益財団法人 日本住宅・木材技術センター

# 製造工程

## 1. 伸線



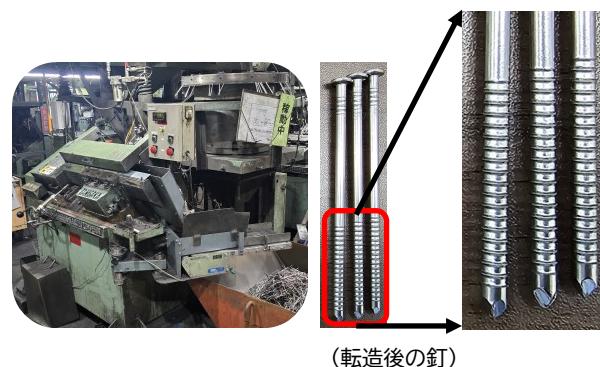
直径5.5mmの「線材」を、ダイス(孔型)に数回通して、引っ張ることで、直径1.7mm～5.2mmの鉄線に加工します。

## 2. 製釘



鉄線から釘の形に成形する工程です。

## 4. 転造



釘の保持力を上げるために、胴部表面に、螺旋状やリング状の模様をつけます。

## 5. 連結



釘を100～1,000本に連結する工程で、針金連結・シート連結・樹脂連結があります。

## 3. 磨釘



製釘後の釘は表面に油が残ることがあります。そのため、釘・オガ屑・洗浄剤を入れた容器を30分～1時間程回転させて、釘の表面を磨きます。

## 6. 梱包



連結された釘のコイルやバラ釘等を段ボール箱等へ箱詰めする工程で、近年では、ロボット導入により、自動化・省人化に積極的に取組んでおります。

# 強み

## ① 独自の技術力・開発力で高付加価値を提供

当社には、特許製品を含む豊富な高付加価値製品の開発実績があります。

2025年1月に「木割れ最強釘Ⅱ杉対応」の特許を取得いたしました。

他にも、オリジナルの木割れ最強釘・瓦用ステンレスねじリング釘・リングアンカー  
(※)などの特許品がございます。



木割れ最強釘Ⅱ杉対応



木割れ最強釘



瓦用ステンレスねじリング釘



リングアンカー

※リングアンカーは、日本植生株式会社との共同特許です。

## ② 大手住宅メーカーを含む優良取引先との強固な信頼関係

当社は全国各地に大手住宅メーカーや2X4パネルメーカーを中心に幅広い業界に販路と優良取引先を持っており、700社以上のお客様と取引をしております。



など



主に自動車用・電気機器用ねじ・ボルトを製造  
多種多様なニーズに応え、安全・高機能・高品質な締結を実現

## 事業内容

電気・輸送機器向として、ねじ・ボルト・冷間圧造部品の製造・販売を関係会社の  株式会社ナテック が行っています。

近年、自動車部品用途向け販売が増えており、中でも電動自動車EV・HEV等の主要部品締結用ねじ・ボルト・パーツフォーマー品は、世界的な環境規制強化により、電動自動車の普及率が2030年代に向かって加速する見込みとなっている中、今後の事業成長が見込まれる分野です。

## 製品例



ALtracs® Plus

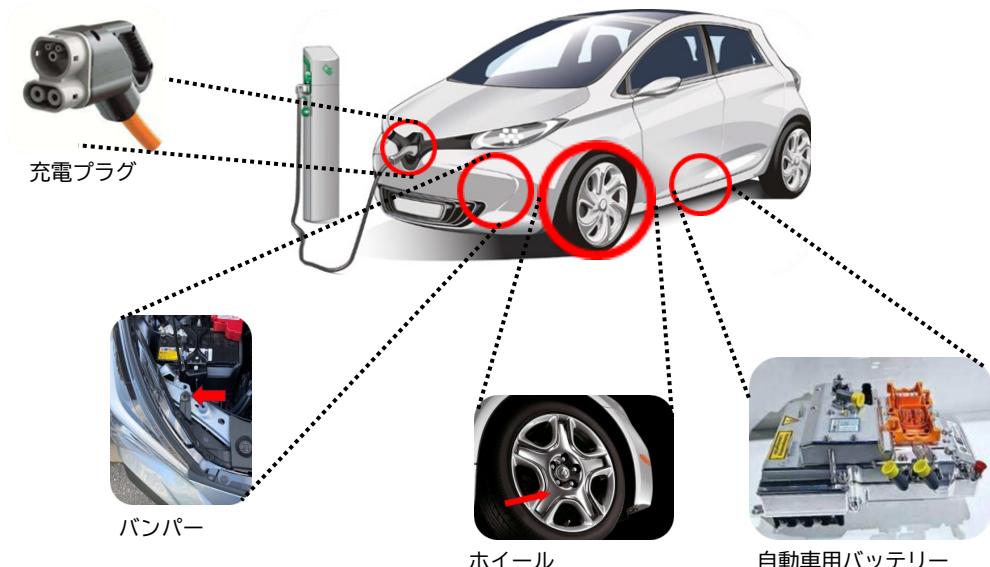


DELTA PT®



パーツフォーマー製品

## 製品使用例



# 製造工程

## ① 圧造



生産能力 $\phi 1.2\text{mm} \sim \phi 15\text{mm}$ 幅広いサイズに対応いたします。マイクロヘッダーから7段パーツフォーマーで複雑な形状も製造可能です。圧造工程では、始業・午前・午後・終業時の毎日4回、工程内検査を実施しております。

## ② 転造



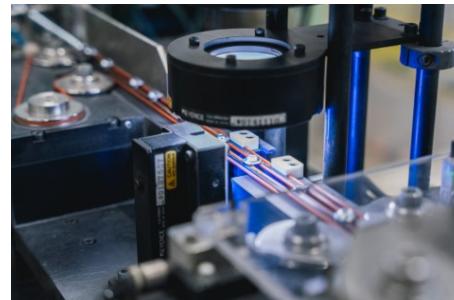
生産能力M1.2mm～M12mmまで幅広いサイズに対応いたします。ねじ加工の他にも、ローレット加工・ミゾ加工（フォームローリング）・転造タップ加工も行っております。転造工程では、始業・午前・午後・終業時の毎日4回、工程内検査を実施しております。

## ⑤ 表面処理



20社以上の協力工場と連携し、表面処理を行っています。50種類以上の処理に対応しており、製品仕様に合わせた加工が可能です。

## ⑥ 選別



カメラ式画像選別機で、形状不良・寸法不良・外観不良などを排除し不良品の流出を事前に防ぎます。24時間稼働で対応しております。

## ③ 二次加工



自社で圧造加工や転造加工を行った後、協力工場様で切削・研磨・プレスといった二次加工を行なっております。

## ④ 熱処理



連続浸炭熱処理炉を自社で完備、安定した品質管理と短納期に対応いたします。調質熱処理については協力工場様4社で対応しております。

## ⑦ 検査



出荷前に検査課にて、寸法・外観・精度・強度などの最終検査を行います。検査課も製造部門と連携して工程内検査を定期的に行っております。

## ⑧ 締結評価試験



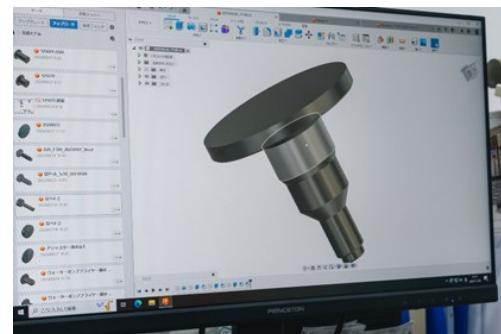
高性能なトルク試験機（ドイツ製）で締め付け試験を行い、最適な締結条件をご提案いたします。更に環境試験機と連結させて-50°C～+150°Cでの温度変化による軸力の変化なども測定可能です。

# 強み

## ① 設計開発力、技術提案力、多様な設備

ナテックでは、常にお客様の多種多様なニーズに応え、安全・高機能・高品質で最適な締結を実現します。また、微細な部品から大きな部品まで精密に仕上げることができます。そして、多段パーツフォーマーにより複雑な形状要求にも対応することができます。

ねじの評価試験でも、「トルク試験機」や「小型環境試験機」などを使用し、ものづくりの工程内で設計段階の品質を確保しています。



## ② 豊富なライセンス品ラインアップ

国内・海外を含め多数のライセンスを取得しております。

**EJOT®**

**CONTI REMINC**

**CAMCAR<sup>®</sup>**  
INNOVATIONS

**CSG**

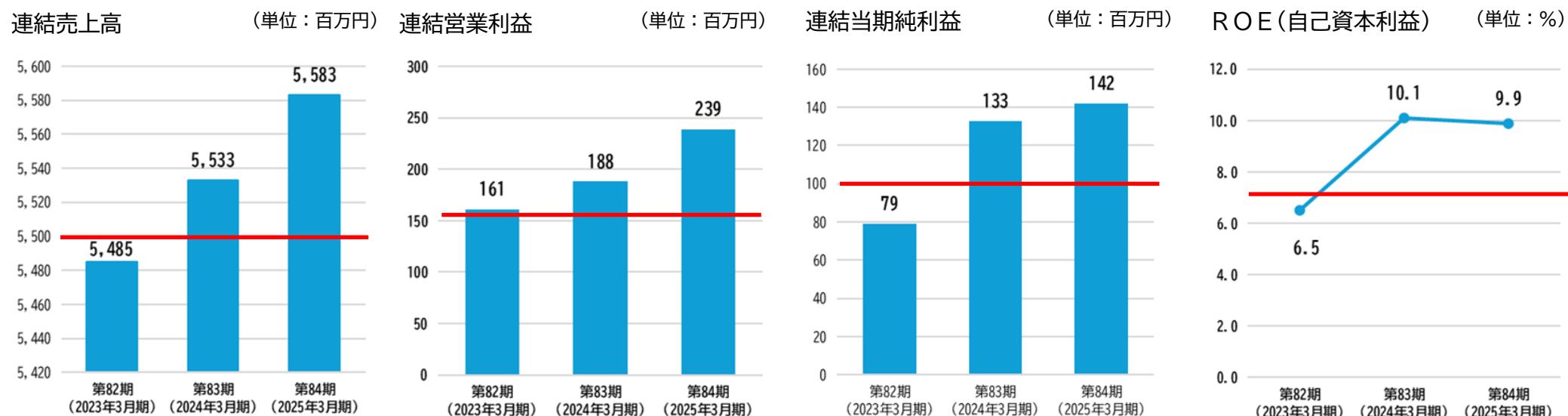
**HIOS<sup>®</sup>**

## 前中期経営計画(2022～2024年度)総括

## «数値目標及び実績»

(単位：百万円)

	計画目標値	2022年度実績	2023年度実績	2024年度実績	判定
連結売上高	5,500	5,485	5,533	5,583	○
連結営業利益	160	161	188	239	○
連結当期純利益	100	79	133	142	○
ROE(自己資本利益)	7.0%	6.5%	10.1%	9.9%	○



※グラフ上の赤線は、いずれも計画目標値

上記の通り、2023・2024年度において全項目で目標を達成しました。

## 中期VISION

新しい時代に向けたつなぐ技術で環境問題へのソリューションを提供し、サステナブル社会の実現に貢献することにより、全てのステークホルダーからの評価を高め持続的な企業価値向上を目指す。

## 基本方針

～さらなる成長へ～

成長分野への経営資源重点配分、強靭な企業体质の完成



収益性向上



生産性向上



成長投資



財務強化

## «重点施策(建設・梱包向)»

### (1) 事業環境

#### ① 耐震ニーズの高まり

気候変動に伴い頻発化している気象災害や、大規模地震への対応として防災・減災・国土強靭化の政府方針のもと、住宅・建築物の耐震構法ニーズが高まっています。

#### ② 非住宅木造建築物が増加中

環境問題を背景に、非住宅木造建築物が増加しています。2030年度の非住宅木造市場は、2024年度と比べて約60%拡大し、1兆1,400億円規模<sup>(※)</sup>になることが予測されています。JISの改定により、中高層木造建築物への釘の活用機会が広がろうとしています。

(※)国土交通省発表の実績・矢野経済研究所の予測を元に当社で算出

#### 「非住宅木造建築物」の一例

高齢者施設

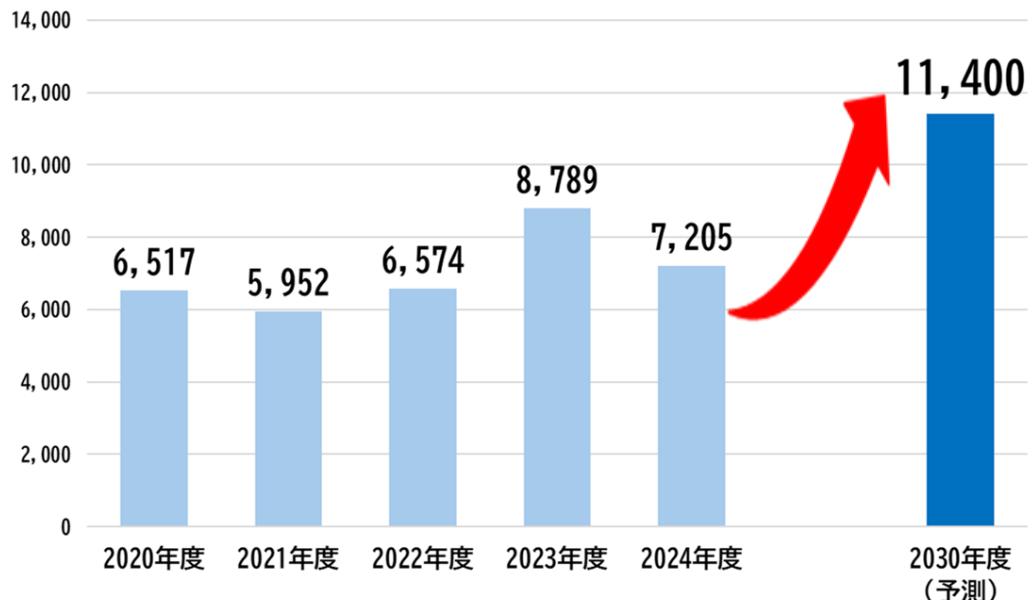


医療施設



非住宅木造市場の実績と予測

(単位：億円)



『国土交通省「建築着工統計」工事費予定額』・『矢野経済研究所の予測』を元に当社作成

幼稚園



倉庫



(出典) 公益財団法人 日本住宅・木材技術センター

## «重点施策(建設・梱包向)»

## (2) 現状認識と課題

## 現状認識

- 高い技術開発力
- 高機能・高品質製品
- 大手ハウスメーカーとの強固な関係

## 課題

- 収益基盤の強化
- 新規ビジネスの創出
- 廉価輸入品との差別化

## (3) 重点施策

## 生産施策

- 無人稼働と多能工化の強化
- 歩留口ス（検査・調整・不良くず）改善
- 非住宅、中大規模木造建築のニーズに合わせた新製品・新技術の開発

## 営業施策

- **高機能製品の拡販**  
(木割れ最強釘Ⅱ杉対応、コンクリート釘、高耐力壁用釘など)
- **急増する木造非住宅分野**(公共施設・商業施設など)  
の需要取込み
- 競争力あるOEM先の開拓

## «重点施策(電気・輸送機器向)»

### (1) 事業環境

#### ① EV・HEVなど電動自動車の需要は益々増加傾向

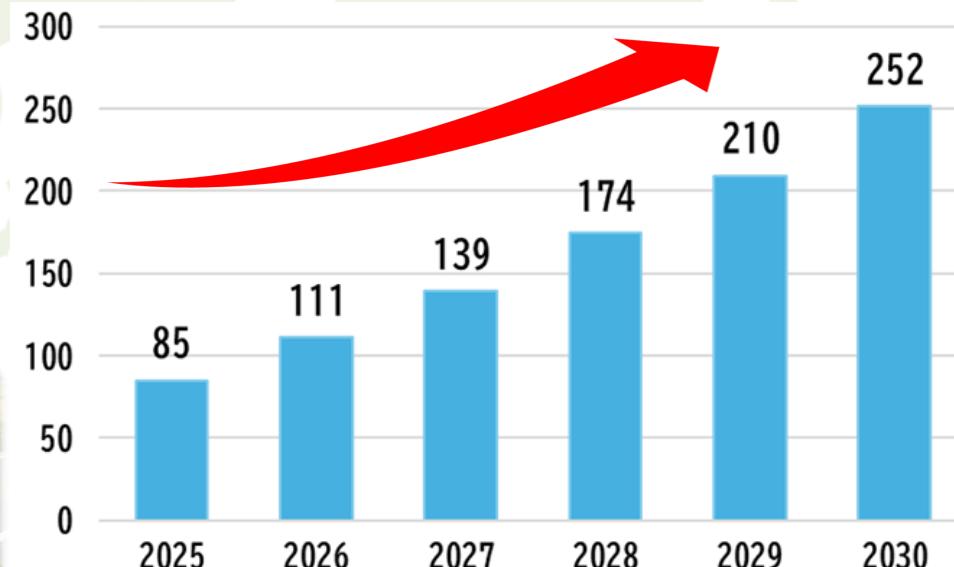
環境問題を背景にガソリン車からEV・HEVなどの電動自動車への置換わりが進むことが見込まれています。世界の電動自動車の普及予測は、2025年時点では8,500万台程度に留まるものの、5年後(2030年)には、約3倍の2億5,200万台程度にまで拡大することが予測されています。

(出典：IEA)



«世界の電動自動車 普及予測»

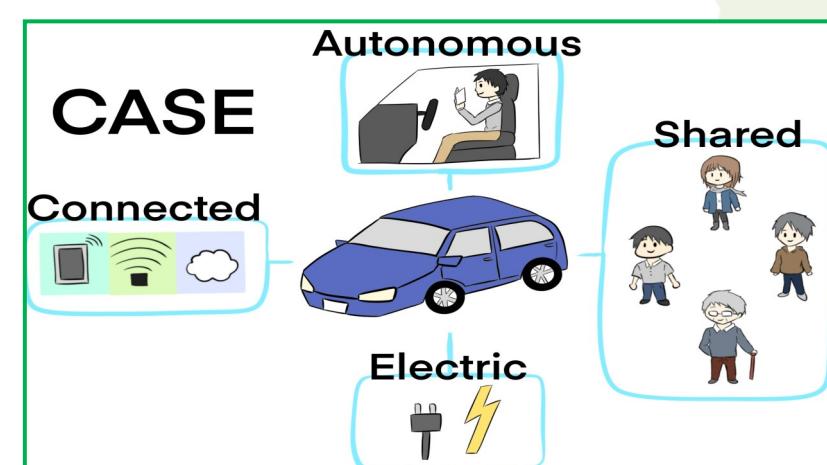
(単位:百万台)



(IEAのデータを元に当社作成)

#### ② 自動運転をはじめとするCASE関連技術の進歩は著しく、センサーなどの需要は増加傾向

近年、世界各国で自動運転の実用化が進んでおり、今後もさらなる発展が見込まれています。自動運転技術には、ミリ波レーダー・LiDAR・超音波センサーなどが使用されます。今後、これらセンサーの需要は増加傾向にあります。



## «重点施策(電気・輸送機器向)»

## (2) 現状認識と課題

## 現状認識

- 部品軽量化のソリューションとしてフォーミングスクリューの販売好調
- 複雑形状の加工が可能な4段/7段パーツフォーマーの稼働率上昇

## 課題

- 生産性向上
- 生産能力増強
- 新分野へのビジネス拡大

## (3) 重点施策

## 生産施策

- 生産能力向上のため無人稼働時間延長
- 自動計量・半自動梱包機を導入し、省人化および迅速な出荷体制を確立
- パーツフォーマー等技能者の育成、人材の多能工化推進

## 営業施策

- E V・H E V車向け電池関連やCASE関連の部品メーカーへの積極的提案活動を強化
- 産業機器・医療機器・農機具・アミューズメント関連への拡販
- ユーザーへの締結コスト改善提案として、海外ライセンス製品・パーツフォーマー製品を中心に拡販強化

## «資本・財務方針»

## 方針

株主還元を重要責務として認識し、業績に応じた配当を継続的・安定的に行うことを基本方針とする。一方、株主の中長期的な利益確保を図るため財務体質の更なる改善や成長投資に備えた自己資本の充実も重要な位置付ける。

## 株主還元

本中期経営計画期間中(2025～2027年度)において、配当性向40%以上を維持する。



## 成長投資

## 【建設・梱包向】

新規優良顧客獲得のための設備投資

## 【電気・輸送機器向】

CASE関連需要増加に対応するための生産能力拡大投資